

2019年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名	中原 智美	職名	講師	学位	修士(保健学)(山口大学2011年)
----	-------	----	----	----	--------------------

研究分野	研究内容のキーワード
成人看護学, 遺伝看護学	慢性期看護, 糖尿病教育・看護, 生活習慣病, 多因子遺伝, 遺伝看護

研究課題
<ul style="list-style-type: none"> 慢性疾患をもつ患者・家族への看護に関する研究 2型糖尿病の遺伝に関する知識が患者の自己管理行動および看護に及ぼす影響についての研究 初年次教育の学修効果に関する研究

担当授業科目
緩和・終末期看護学 (看護学科) 成人・老年看護学演習 (看護学科) 成人慢性期看護方法論 (看護学科) 成人慢性期看護学実習 (看護学科) 2019年度前期, 2019年度後期~2020年度前期 初年次セミナーⅠ (看護学科) 初年次セミナーⅡ (看護学科) 看護研究の基礎 (看護学科) 看護総合演習 (看護学科) 看護総合実習 (看護学科)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 緩和・終末期看護学 】</p> <p>主な担当内容は、がん看護(5コマ)、症状緩和のためのマネジメント(2コマ)であり、実際に3年次以降の実習で知識を活用できるように、できるだけ具体的な看護方法を示しながら講義した。また、疾患・治療による影響のメカニズムやなりゆきを明確にし、それに対応した看護方法を示すことで、看護の根拠を理解しやすいように工夫した。</p> <p>講義内容の理解を深めるための工夫として、疾患・症状・治療などのイメージが難しいものについては画像を見せたり、テレビドラマなどの話題を盛り込んだりした。また、講義終了後にカードに質問や感想を記入してもらい、次の講義の冒頭で質問への回答や感想を紹介して、さらに関心を高められるように努めた。</p>
<p>授業科目名【 成人・老年看護学演習 】</p> <p>看護過程演習では、慢性期疾患(肝硬変)の事例を通して看護過程の展開(10コマ)を主担当として講義した。対象(成人、慢性疾患を持つ患者)の状態を根拠に基づいてアセスメントするためのポイントを解説し、看護上の問題を引き起こしている原因やなりゆきを考え、看護目標・看護計画とのつながりを考えられるように繰り返し説明した。個別性のある看護が導き出せるよう、グループワークでの直接指導に加えて提出ファイルへのコメントを細やかに言い、思考過程のトレーニングを行った。</p> <p>技術演習では、糖尿病の食事療法に関する演習、血糖自己測定・インスリン自己注射に関する演習などを通して患者役・看護師役として患者教育の体験ができるように工夫した。それぞれ、技術の手技習得のみならず、事例を題材として患者の生活改善や行動変容のために必要な教育や心理面への配慮すべき点を考えながら実践できるようにした。事後には必ず振り返りの機会を設け、学生が患者の生活を思い描きながら患者の心身の状況に沿った援助を導きだせるように指導を行った。</p>

授業科目名【 成人慢性期看護方法論 】

主に、内分泌・代謝機能／腎・排泄機能／生体防御機能に障害をもつ人の看護（計 7 コマ）と中間まとめ（1 コマ）を担当した。それぞれの機能障害によっておこる身体面への影響、疾病のなりゆきを予測してアセスメントする力が身に付くよう、代表的疾患を例に挙げ観察項目やアセスメントの視点を具体的に示した。また、慢性疾患をもつ成人やその家族の心理・社会面の特徴をふまえ、QOL をより高め、その人らしく生きるために必要なセルフケア支援についても、看護目標、看護のポイント、症状・苦痛の緩和やコントロール方法、心理・社会面への支援方法を具体的に示し、根拠立てて理解しやすいように講義の流れを組み立てた。

全体を通して、病態の理解などは既習科目の復習を本科目の予習として課し、講義中に指名して問いかけながら知識を確認することで学習への動機づけができるように意識した。また、病態の理解をもとにアセスメントの視点や看護の方法を思考するトレーニングができるように、課題を出したり、講義中に意図的に問いかけ思考を促す機会を増やしたりするように工夫した。また、講義終了後にカードに質問や感想を記入してもらい、次の講義の冒頭で質問への回答や感想を紹介して、さらに関心を高められるように努めた。

授業科目名【 成人慢性期看護学実習 】

実習中のカンファレンスや学内日、最終面談において、次の 2 点を意識して直接的・間接的に指導を行った。

- ①患者を全人的に捉えたアセスメントを行い、治療を継続するためにこれまでのライフスタイルや価値観に基づいた個別性のある看護実践ができるように指導を行った。
- ②アセスメント、看護診断(PES)、看護の方向性(目標・計画)、看護実践、評価、という看護展開のなかで論理性・整合性のある思考ができるように、全体の流れとそれぞれの位置づけの関係性を意識できるように指導を行った。特に指導を要す学生に対しては実習前・中・後に個別面談を行い、実習目標が達成できるよう個々の問題に応じた指導・支援を行った。また、実習施設との指導方針の調整を行い、実習がスムーズに運ぶように働きかけた。

授業科目名【 初年次セミナー I 】

- ①今年度より科目担当者が 10 名から 5 名の体制になった。教員が約 20 名の学生を担当することから、教員間での指導の差をなくすため、講義前には講義内容の確認を、講義後には学生の姿勢や達成状況などについて意見交換を行った。
- ②また、学生が講義内容を充分把握した上でゼミ活動を行うことができるよう、授業進行にそって講義責任者が、学生全員を対象に講義概要を説明した。その後、ゼミ別にゼミ担当教員が学生指導を行った。
- ③スタディ・スキルズの習得をより図るためミニレポート・レポート作成に取り組む授業コマ数を昨年より 2 コマ増やした。提示する課題についても検討を加えた。また、昨年の課題であった文献引用・文献記載法の指導を強化した。
- ④ミニレポート・グループワーク・ポートフォリオについては、評価視点を明確にするため評価表の修正改善を行った。
- ⑤昨年同様、情報収集の方法について情報課および図書課と連携し実践を通し学生の学びを深めた。

授業科目名【 初年次セミナー II 】

- ①初年次セミナー II では、初年次セミナー I で学修した基礎的知識・スタディ・スキルズの強化を図り、プレゼンテーションの機会を設けた。特に看護学科ではこれから学修する専門科目の基盤として「書く」「考える」クリティカルシンキングを意識したプログラムとした。
- ②講義を 2 コマ続けて実施することで、学習内容・進度にあわせた講義進行が可能になった。
- ③初年次セミナー I での学生の意見を受けて文献カードの記載法や、学生が議論をとおして思考できるよう課題発見のためのシートなども改良した。また、学生が考え抜く力を身につけるために、毎回の演習の振り返りを行うためのシートを追加した。
- ④課題レポートのグループテーマを新聞情報から見つけるように指導した。この取り組みにより学生の社会に対する視野の広がりにつながったと考える。
- ⑤初年次セミナー II では初年次 I とは異なるグループ編成にした。その結果、学生間に大きな評価の差もなく、学生からは「今まで会話したことがなかった学生との交流が図れた」との意見が聞かれた。
- ⑥DP にそった評価指標をオリエンテーションで明示した。学生はレポート作成、発表と段階に応じた自己評価を行い、自己の振り返りを行うことができていた。
- ⑦今年度は、教育体制を教員 10 名から 5 名にした。少人数での協議は、教員間の調整が容易となり、講義内容および成績評価の差が少なくなった。また、パワーポイントを用いた発表評価は、担当者 5 名に看護学

科教員1名を加えた計6名で評価した。複数の教員による評価で、より客観的な評価を行うことができた。

授業科目名【 看護研究の基礎 】

本科目では、研究の基礎となる知識や考え方を講義で学びながら、同時に研究計画から発表までの研究のプロセスを実践することで、クリティカルシンキングや看護研究の視点をもち疑問を追求する姿勢を育むように工夫した。担当教員ごとに3グループ(20名前後)の看護研究を受け持ち、グループワークを通して指導、助言を行ったが、少しでも疑問を追求することの楽しさを感じられるように、テーマ設定から意欲を高めることを意識して関わった。また、発表会を通して他のグループとも学びを共有でき、それぞれのグループが達成感を感じられるように関わった。

授業科目名【 看護総合演習〔慢性期・終末期〕 】

実習前の計画立案では、自己課題に基づいた実習テーマの設定、および根拠ある看護実践のために文献検索を行い、実習計画立案に反映できるよう指導した。

実習後のレポートでは、自己の実践を振り返り、文献や理論と比較しながら科学的な視点をもって検証することで今後の課題が明確になるよう指導した。また、発表会を行うことでそれぞれの学びを共有でき、達成感も感じられるように計らった。

そのほか、臨地との連絡・調整などを通して学生が主体的に行動できるよう指導・助言を行った。

授業科目名【 看護総合実習〔慢性期・終末期〕 】

各論実習からステップアップし、根拠に基づいた総合的な看護実践能力を培うことや自己課題の明確化を目標に、各学生の立案した計画に基づき実習が遂行できるように指導や臨地指導者との調整を行った。

また、これまで経験できなかったことなどを積極的に見学・実践し、学びを上げられるように助言を行った。実習姿勢としては、これまでより自立した姿勢をもち、専門職の一員として責任感をもって実習にあたるように指導した。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等(任期)	加入時期
日本看護研究学会		2007年4月～現在に至る
日本糖尿病教育・看護学会		2007年5月～現在に至る
日本遺伝看護学会		2007年5月～現在に至る
日本看護科学学会		2012年7月～現在に至る
日本看護学教育学会		2013年7月～現在に至る

2019年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文) 1. 看護学科における初年次教育の取り組み	共著	2020年3月	西南女学院大学紀要 Vol.24	①看護学科の初年次教育(初年次セミナー)におけるスタディ・スキルの修得および看護専門職としてのキャリアデザインを描くための動機づけとなる教育プログラムを検討し報告している。また、プログラム実施後の学生

2019年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				の到達度自己評価をふまえた今後の課題について述べている。 ②共著者名 高橋甲枝, 目野郁子, 新谷恭明, 前田由紀子, 一期崎直美, 笹月桃子, 溝部昌子, 吉原悦子, 財津倫子, 中原智美 ③ (P11～P21)
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社 会 に お け る 活 動 等

団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
<ul style="list-style-type: none"> ・ギラヴァンツ北九州 救護ボランティア (ミクニワールドスタジアム北九州 に於けるホームゲーム全17試合) 	コーディネーター および指導, 引率	2019年2月～現在に至る
<ul style="list-style-type: none"> ・北九州マラソン 2020 AED 隊ボランティア 	学内代表者 (参加希望者の統 括・オリエンテーション、引 率) およびボランティア参加	2020年2月16日

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

<ul style="list-style-type: none"> ・実習コーディネーター (実習施設間との連絡・調整, 各領域間との連絡調整, 実習計画, 会議・オリエンテーション日程の調整など)
